



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

1月号—No.285

2019.1.1

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【ターキーレッド(ターキッシュレッド)】トルコ産の茜染のような鮮やかな赤。

別名オリエンタルレッド。茜草の根から採った染料で染められた赤色のことで、トルコ帽の赤、キリムの赤など、トルコを代表するイメージカラーのひとつ。日本で言うところの茜色。

## ●目次 / contents

地域創造理事長 新年のご挨拶.....2

今月のニュース.....4

第19回「地域伝統芸能まつり」のご案内  
平成30年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設の決定

財団からのお知らせ.....7

「公共ホール現代ダンス活性化事業」2020・2021年度登録アーティスト  
(コンテンポラリーダンス)募集 / 「TPAM —国際舞台芸術ミーティング in  
横浜2019」開催のお知らせ / 平成30年度「邦楽地域活性化事業」ガラコ  
ンサート開催 / 雑誌「地域創造」第44号発行

今月の情報.....9

地域通信

今月のレポート.....12

愛知県碧南市 碧南市藤井達吉現代美術館  
「愉しきかな! 人生—老当益壮(老いてますます盛ん)の画人たち」

発行元：一般財団法人地域創造  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11  
オリックス赤坂2丁目ビル9F  
Tel. 03-5573-4066 Fax. 03-5573-4060  
URL: <http://www.jafra.or.jp/>

# あけましておめでとうございます

平成31(2019)年1月1日  
一般財団法人地域創造

地域の皆様とともに  
創造性豊かな地域づくりを目指してまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 2019年1月～3月 地域創造事業スケジュール

当財団では年度末まで、全国各地でさまざまな事業を展開しております。

### 1月

- 公立美術館共同巡回展開催助成事業  
地域連携展「おおいた美術散歩」(大分県臼杵市/1月9日～2月4日)  
「出版100年記念 有島武郎『生まれ出づる悩み』と画家・木田金次郎」展(北海道岩内町/1月12日～3月31日)
- 公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業  
鹿児島セッション 知名町公演(鹿児島県知名町・おきえらぶ文化ホール あしびの郷・ちな/1月9日～12日)
- 公共ホール現代ダンス活性化事業  
兵庫県豊岡市(Aプログラム)/1月16日～19日
- 公共ホール音楽活性化事業  
佐賀県佐賀市/1月17日～19日、大阪府四條畷市/1月24日～26日、長野県佐久市/1月25日～27日、熊本県菊陽町/1月15日～19日(発展継続)
- 平成30年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式(東京都・ランドアーク半蔵門/1月18日)
- リージョナルシアター事業  
茨城県牛久市/1月20日～21日、27日～28日、埼玉県秩父市/1月23日～26日、埼玉県東松山市/1月30日～2月2日、愛知県小牧市/1月31日～2月3日
- 邦楽地域活性化事業  
ガラコンサート(広島市・広島県民文化センター/1月26日)

### 2月

### 3月

- 公共ホール現代ダンス活性化事業  
静岡県川根本町(Bプログラム)/2月1日～3日、3月6日～11日、沖縄県浦添市(Aプログラム)/2月14日～17日、徳島県(Bプログラム)/2月26日～3月4日
- 公共ホール音楽活性化事業  
岡山県美作市/2月1日～3日、福岡県久留米市/2月7日～9日、愛知県刈谷市/2月12日～14日
- 公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業  
鹿児島セッション ガラコンサート(鹿児島市・宝山ホール/2月23日)
- 公共ホール演劇ネットワーク事業「桂九雀で田中啓文、こともあろうに内藤裕敬。笑酔亭梅寿謎解晰～立ち切れ線香の章～」  
兵庫県豊岡市/2月10日、神奈川県茅ヶ崎市/2月16日、大阪府能勢町/2月24日
- 公立美術館共同巡回展開催助成事業  
地域連携展「おおいた美術散歩」(大分県中津市/2月13日～18日)
- リージョナルシアター事業  
愛知県小牧市/2月14日～17日
- 第19回地域伝統芸能まつり(東京都・NHKホール/2月24日)

## ～新年のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長 板倉敏和

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当財団の事業にご支援・ご協力をいただき、関係者の皆様には心から御礼申し上げます。

地域創造は、本年9月に設立25周年を迎えます。この間、当財団は、地域住民が良質な文化・芸術を創造し、享受することができるようなゆとりと潤いに満ちた健やかな地域社会の実現に資するため、地方公共団体の方々、公立文化施設の方々、地域の文化・芸術の担い手の方々と手を携えて活動してまいりました。長年にわたり皆様にご理解・ご協力をいただいたことに対しまして、心から感謝申し上げます。

これまで当財団は、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化の支援、地域伝統芸能の保存・継承の支援、地域の文化・芸術環境づくりに関する情報発信・調査研究という4つの柱で事業を実施してまいりました。その成果を省みますと、人材の育成では、ステージラボなどの実践的な体験型研修を実施し、累計で約6,300人を超える参加をいただくとともに、経験者の多くが最前線で中核的な役割を担っておられます。公立文化施設の活性化支援策として当初は斬新な取り組みとしてスタートしたアウトリーチ事業は、延べ1,100団体で約3,800回実施され、今や当たり前の取り組みとして定着しつつあります。

また、この秋行われるラグビー・ワールドカップや開幕まで残り500日余りとなった東京オリンピック・パラリンピック競技大会に加え、2025年には大阪万博の開催も決定する流れの中で、地域の文化・芸術を巡る環境も変化してきています。平成29年の文化芸術振興基本法改正により制定された「文化芸術基本法」は、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他の各関連分野における施策との有機的な連携の必要性を謳うなど、文化・芸術が社会にもたらす多様な効果にも注目が集まっています。私どもとしては我が意を得たりといったところですが、こうした文化・芸術に対する期待の高まりにも着実に応えられるよう、皆様のご意見・ご提案に真摯に耳を傾け、時代に即した見直しを図りながら、事業の推進を図ってまいりたいと考えております。

引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2019年1月

●「地域伝統芸能まつり」

# 19回目の今年は「躍る(おどる)～身も、心も、弾む。～」をテーマに開催

第19回  
地域伝統芸能まつり



平成29年度 第18回地域伝統芸能まつり フィナーレの様子

地域創造では、地域の重要な資源である地域伝統芸能の保存・継承・活用を支援しています。なかでも、日本各地域の伝統芸能と古典芸能がNHKホールに一堂に会し、個性豊かでさまざまな芸能が歴史的・地域的な解説とともに披露される「地域伝統芸能まつり」は、日本の芸能の素晴らしさや地域の伝統の重みを再認識する機会として高く評価されています。

平成12年度から毎年開催されてきたこのまつりでは、これまで、全国47都道府県から183演目が披露されました。19回目となる今年のテーマは、「躍る(おどる)～身も、心も、弾む。～」。

テーマに沿った、日本各地域の伝統芸能7演目と古典芸能1演目をご紹介します。

◎出演予定の地域伝統芸能・古典芸能(出演順)

行祭事名または演目	地域または出演者	県単位でみた場合の出演回数等
盛岡さんさ踊り	盛岡市(岩手県)	2年連続11回目
熊本新町獅子舞	熊本市(熊本県)	2年ぶり5回目
八木節	足利市(栃木県)	12年ぶり2回目
花輪ばやし	鹿角市(秋田県)	2年ぶり8回目
狂言『呼声』(大蔵流)	山本東次郎ほか	—
三作神楽	周南市(山口県)	12年ぶり3回目
早稲谷鹿踊	気仙沼市(宮城県)	3年ぶり6回目
長崎くんち龍踊	長崎市(長崎県)	9年ぶり4回目

[日時]平成31年2月24日(日)  
午後2時30分開演(午後1時30分開場)  
[会場]NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)  
[入場]無料  
[主催]地域伝統芸能まつり実行委員会  
一般財団法人地域創造  
[後援]総務省、文化庁、観光庁、NHK  
[協力]日通旅行株式会社

◎応募方法

平成31年1月31日(木)必着

※応募多数の場合は抽選。発表は本人に直接通知します。

1. インターネット(パソコン、携帯電話等)  
募集サイトからご応募ください。

<http://www.jafra.or.jp/matsuri/>

2. はがき  
往復はがきに①～⑦を明記の上、下記事務局までお送りください。

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年代 ⑤性別

⑥電話番号 ⑦入場希望者数(はがき1枚につき2名まで)

[応募先]

〒150-0047 東京都渋谷区神山町5-5 NRビル5F

「地域伝統芸能まつり」観覧応募事務局

※ご応募いただいた個人情報は、本事業の抽選、当・落選告知および個人を特定しない統計資料の作成の目的のみ使用します。また、事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示・漏洩しません。

◎お問い合わせ ハローダイヤル  
Tel. 03-5777-8600(全日8:00～22:00)

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ  
総務部 米山  
Tel. 03-5573-4056

## ▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

### ●第19回地域伝統芸能まつり プログラム紹介(予定) \*演目に変更される場合もありますのでご了承ください。

#### もりおか おど 盛岡さんさ踊り(岩手県盛岡市)



さんさ踊りは、藩政時代から受け継がれてきた踊りで、地域ごとに踊りや太鼓のリズムが異なり、盆踊りとして盛んに踊られてきました。1978年からは踊りを統一した「盛岡さんさ踊り」が毎年8月1日から4日まで開催され、今ではすっかり盛岡の夏のメインイベントとして定着しています。4日間で、踊り手、笛、太鼓合わせて延べ3万5千人ほどの群衆となり、勇壮な太鼓パレードと優雅な舞いが、盛岡の夏の夜を彩ります。また、2014年には「和太鼓同時演奏の世界記録」を奪還し、再び世界一の太鼓の祭りとなりました。

#### やぎぶし 八木節(栃木県足利市)



八木節の発祥は、例弊使街道の宿場「八木宿」で、江戸末期から明治初期にかけて遊女の間で歌われていた『くどき節』を、渡辺源太郎(初代堀込源太)が荷馬車を引きながら早口に唄い替えたものがそのルーツといわれています。源太は稀な美声の持ち主で、街道沿いの人々は仕事の手を休めて聞き惚れたと伝えられています。大正初期には、レコードが発売され、当時としては驚異的な枚数の売上げを記録。さらにはラジオ放送の効果で八木節は全国に広まることとなりました。

#### よびこゑ 狂言『呼声』(大蔵流) [出演]山本東次郎ほか



無断欠勤が続いた太郎冠者の私宅に、腹を立てた主人と次郎冠者がやって来ます。しかし、本人は居留守を決め込んで出てきません。「留守を預かる隣の者」と応えた声が太郎冠者の声と気づいた主人たちは流行のさまざまな音曲を使って呼んでみます。「太郎冠者どの内にごさるか。内にごさらばお目にかかる」「太郎冠者どの留守でござる。ご用ござらば仰せおかれ」。最後、「踊り節」で浮き浮きと楽しく呼声を始めると、主従三人は夢中になって踊り出してしまいます。さて、結末はどうなりますか…。

#### おせ やしほり 早稲谷鹿踊(宮城県気仙沼市)



気仙沼市早稲谷地区に伝わる8頭の鹿踊りです。記録には1827年、東磐井郡大原山口(現岩手県一関市大東町)の喜左衛門よりこの地に伝承されたものといわれています。毎年旧暦6月24日の前後に、地区内にある「甘酒地藏尊」の祭典に奉納される祖先の霊を供養する念仏踊りです。背中に竹を削って結束した4メートル以上のササラを立て、腰太鼓をさげ、唄いながら勇壮に踊ります。この太鼓のリズムは躍動的で、早稲谷鹿踊独特のものといわれています。宮城県指定無形民俗文化財。

#### くまもと しんまち ししまい 熊本新町獅子舞(熊本県熊本市)



1607年熊本城築城の折、城内の町人町として新町は生まれました。そこで住民がお祝いとして奉納したのが新町獅子舞の始まりと伝えられています。後に、江戸中期の享保年間から藤崎八幡宮の秋季大祭に奉納されてきたものです。藤崎八幡宮例大祭では、先ず「獅子の飾卸」と称する清めのお祓いがあり、「天拝」と称する神事の舞が厳かに演じられます。さらに牡丹の花車を中央に引き出して、「牡丹の舞」が豪華絢爛かつ勇壮に演じられます。「牡丹の舞」は、地元の役者らによって新たな獅子舞が伝授されたことが始まりで、後に手直しされ、明治期に完成し今日に至っています。

#### はなわら 花輪ばやし(秋田県鹿角市)



花輪ばやしは、幸福荷神社の祭礼において奉納される祭礼ばやして、昭和35年から花輪神明社の祭礼が合流し現在の10町内による運行形式になった日本一の祭り囃子とも称賛される鹿角市最大の祭りです。8月19日・20日は、絢爛豪華な十の屋台が集合し、競演を繰り広げます。地元の人はもちろん観光客も訪れて、華やかな賑わいを見せます。平成26(2014)年3月に「花輪祭の屋台行事」として国の重要無形民俗文化財に指定。平成28(2016)年11月に「山・鉾・屋台行事」のうちの一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。

#### みつりかぐら 三作神楽(山口県周南市)



三作神楽は、和田三作地区に古くから伝承され、7年目ごとの式年祭で地元河内社に奉納されている神楽舞。大宝年間(701~703年)に飢饉と疫病に見舞われた際に、河内社に五穀豊穡と疫病退散を祈願したところ、村に平和が訪れたため、そのお礼に三村落総出で神楽を奉納するようになったのが始まりと伝えられています。神殿を設け、神迎えをして23の神楽舞を奉納するこの神楽は、神祭りの古風な形をとどめ、中世の華やかな芸能を取り入れて祭りの興奮を高めています。国指定重要無形民俗文化財。

#### ながさき しゅうり 長崎くんち龍踊(長崎県長崎市)



龍踊は、日本三大祭の一つとして全国的に有名な諏訪神社の大祭「長崎くんち」の奉納踊(国指定重要無形民俗文化財)の一つで、勇壮な伝統芸能として広く知られています。龍踊は、中国で五穀豊穡を祈る雨乞い神事に始まったものといわれており、当時の本籠町の町民が唐人たちの指導を受け、三百余年の間に踊り方が非常に巧みになり、日本独特の巧妙な演技を見せるに至りました。長さ20mの龍体が唐服を着た玉使いが操る玉を追って独特な唐楽拍子に合わせて、まるで生きているかのように舞う様子は実に壮観です。

## ●平成30年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設の決定

平成30年12月、地域創造は、地域創造大賞(総務大臣賞)の受賞施設を決定しました。これらの施設を設置した地方公共団体の皆さん、地域を豊かにするとの行政の目的に沿って施設を運営するために汗をかいたスタッフの皆さん、施設を拠点としてさまざまな活動をしている地域住民の皆さん、本当におめでとうございます。地域創造では、次のとおり、受賞施設の活動を広く全国に紹介させていただくこと等を通じまして、全国の公立文化施設のさらなる活性化が図られることを期待しています。

◎平成30年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式

[日時]2019年1月18日(金) 14:00～ [会場]グランドアーク半蔵門

### アーツ前橋

群馬県前橋市

#### “まちなか美術館”として地域再生を牽引

旧商業ビルをコンバージョンした美術館。展覧会や多ジャンルのイベントにより賑わいを創出。アーティスト・イン・レジデンス、市民と協働した前橋まちなか文化祭、福祉・医療・教育団体とアーティストが継続的に関わる「表現の森」など、意欲的にまちと繋がり、アートによる地域再生を牽引した。

[運営]前橋市  
[開館]2013年



### 長岡リリックホール

新潟県長岡市

#### “芸術団体との協働”により人づくりを推進

音楽専用ホール、シアター、充実した練習スタジオからなる複合施設。“みんなのホール”をコンセプトに、長岡少年少女合唱団、ジュニアミュージカル、ジュニアストリングオーケストラを育成。また、準フランチャイズ契約を結んだ職業芸術団体による鑑賞事業やワークショップ、アウトリーチを継続し、文化による人づくりを推進した。

[運営]公益財団法人長岡市芸術文化振興財団 [開館]1996年



### 茅野市民館

長野県茅野市

#### “まちの文化広場”として心豊かな生活を推進

ホール、美術館、図書室、コミュニティスペースが一体となった地域文化創造・交流施設。市民サポーターの育成に力を入れ、世代を越えた交流を図る多彩な市民提案事業を展開。また、地域の宝である縄文をテーマとした企画や市民参加型事業をプロデュースし、文化を通じた交流により心豊かな生活を推進した。

[運営]株式会社地域文化創造  
[開館]2005年



### 穂の国とよはし芸術劇場(PLAT)

愛知県豊橋市

#### “まちなか文化施設”として地域に活力

東三河地域における芸術文化の創造・発信・交流拠点。本格的な演劇・ダンス・音楽などの鑑賞事業を提供。また、「高校生と創る演劇」をはじめとしたさまざまな参加型事業を展開し、ファシリテーターなどの人材育成にも尽力。豊橋駅と直結した市民が集う“まちなか文化施設”として地域の活性化に貢献した。

[運営]公益財団法人豊橋文化振興財団 [開館]2013年



### 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

徳島県

#### “新たなアイデア”で伝統文化に活力

徳島が誇る「阿波人形浄瑠璃」を常打ちする専門館。義太夫教室、出前公演などの普及事業に力を入れるとともに、「人形浄瑠璃とくしま座」による新作にも挑戦。また、地域に残る農村舞台との連携を図り、観光資源として新たなアイデアによる事業を展開するなど、伝統芸能の継承・発展の新たなあり方を提示した。

[運営]徳島県立阿波十郎兵衛屋敷管理運営業務参加グループ [開館]2006年



### 高松市美術館

香川県高松市

#### アートによる“都市文化の活性化”を推進

戦後日本の充実した現代美術コレクションを有する都市型美術館の草分け。瀬戸内国際芸術祭を契機に発信に力を入れ、グループ展「高松コンテンポラリーアート・アンニヴァーサル」や現代美術作家の意欲的な大規模展を展開。また、子どもや地域に開かれた美術館を目指すなど、プラットフォームとして“創造都市高松”を推進した。

[運営]高松市  
[開館]1988年



## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

### 財団からのお知らせ

#### ●「公共ホール現代ダンス活性化事業」 2020・2021年度登録アーティスト(コンテンポラリーダンス)募集

この事業は、地域創造に登録されたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域のホールに派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム(アウトリーチ、公募型ワークショップ)や公演を実施するものです。2020・2021年度事業の実施に向けて、登録アーティストを募集します。事業の趣旨にご賛同いただけるアーティストの方々からのご応募をお待ちしております。また、公立文化施設等の担当者の方々には、地域で活躍するアーティストをご紹介いただければ幸いです。

#### ◎2020・2021年度登録アーティスト募集概要

##### [応募条件]

①コンテンポラリーダンスのアーティストとして活動し、自身の作品を発表した経験のある方 ②ソロ、またはデュオで活動ができる方 ③幅広い層を対象としたアウトリーチや公募型のワークショップを行った実績がある方 ④実施プログラムのすべてに対応できる方

##### [募集要項]

募集要項および応募用紙は当財団ホームページの「様式箱」([http://www.jafra.or.jp/form\\_box/form\\_detail/category\\_id/14/](http://www.jafra.or.jp/form_box/form_detail/category_id/14/))からダウンロードできます。詳細は担当までお問い合わせください。

[応募締切] 2019年2月18日(月)

[選考日程] 2019年4月8日(月)

(書類および映像資料による選考)

#### ●「TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019」開催のお知らせ

国内外の重要な劇場・フェスティバル・芸術文化団体から数百人の関係者が集い、公演や交流プログラムを通じて、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報を交換し、ネットワークを広げるプラットフォーム「TPAM(ティーパム) - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019」が2月に横浜市内各所で開催されます。

参加者自身がテーマを設定して約10~110名/40分のミーティングを主催できる交流プログラム「グループ・ミーティング」では、劇場やアーティスト団体、助成団体、公立文化機関の活動紹介だけでなく、関係者同士で共有したい課題など多様なテーマでミーティングが行われます(現在ホスト登録を受け付け中。締切:2019年1月15日)。また、ゲストを招いて舞台芸術と社会を繋ぐさまざまなトピックをテーマにしたシンポジウムやトークも実施されます。

公演プログラム「TPAMディレクション」では、日本、アジア、世界の舞台芸術の最新動向を反映し、共同制作やコラボレーション、地域コミュニティなどの問題に深く関わる10作品/プロジェクトが上演されます。ホセ・マセダ(フィリピン、1917~2004)作曲の100人のボランティア演奏者によるマルチメディア・パフォーマンス『カセット100』(1971)をはじめ、東南アジアの脱植民地史と共産主義をめぐる3カ国の作品、独立以来初の政権交代を起こした2018年マレーシア総選挙への応答、北京出身のアーティストが提案する「ポスト資本主義」の現代美術オークションなど、多様な

形式のパフォーマンスが、プロフェッショナルのための国際プラットフォームならではの濃度とスピード感で紹介されます。その他、新人から国際的に評価されるプロジェクトまで多様な公演が集まる公募プログラム「TPAMフリンジ」も開催。未だ見ぬ才能の発見や、さまざまな出会いが期待されます。参加登録はウェブサイト(<https://www.tpam.or.jp>)から可能です。



上:『カセット100』(ホセ・マセダ作曲、1971)  
1971, Photo by Nathaniel Gutierrez, Courtesy of UP Center for Ethnomusicology and Ringo Bunoan  
下: 昨年のグループ・ミーティングの様子 撮影: 古屋和臣

●公共ホール現代ダンス活性化事業に関する問い合わせ  
芸術環境部 栗林・岩藤・佐藤  
Tel. 03-5573-4077・4055  
dankatsu@jafra.or.jp

●TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019  
[会期] 2019年2月9日~17日  
[主会場] KAAAT神奈川芸術劇場、Kosha 33(神奈川県住宅供給公社)、横浜市開港記念会館、象の鼻テラス、BankART Station、横浜赤レンガ倉庫1号館、mass xmass 関内フューチャーセンター、Amazon Club  
[主催] 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2019 実行委員会  
(国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC - 国際舞台芸術交流センター)  
[助成] 公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー  
[協力] 外務省、文化庁、神奈川県、横浜市  
[提携事業] 横浜ダンスコレクション2019、舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)、アートサイト ラウンジ[場づくりとアートの営み]

## 財団からのお知らせ

### ●平成30年度「邦楽地域活性化事業」 ガラコンサート開催

今年度は(公財)ひろしま文化振興財団の主催で、若手邦楽演奏家3組(計9名)が海田町、廿日市市、東広島市、福山市の4市町の小学校9校で全15回の交流プログラム(アウトリーチ)およびコンサートやワークショップを実施しました。

その3組の演奏家が一齐に集うコンサートが1月26日(土)に広島県民文化センターで開催されます。地域交流プログラムで披露した曲目を中心とした各組それぞれの演奏のほか、広島大大学院の徳永崇准教授に編曲を委嘱した

『春の海』では、9名の演奏家全員が舞台上に立ち合同演奏を披露します。邦楽事業に関心をお持ちの近隣ホールの方はぜひご来場ください。

#### ◎平成30年度邦楽地域活性化事業 (公財)ひろしま文化振興財団 設立40周年記念 「邦楽ガラコンサート“和音響演”」

[日時] 2019年1月26日(土) 14:00開演

[演奏曲目] 合同演奏『編曲 春の海～9名による和音響演～』、長唄『勤進帳』、箏曲『秋篠寺』、委嘱初演『森羅の瞬き』 ほか

[出演] 森田博代、見澤太基、山下紗綾、喜羽美帆、岡戸朋子、小泉なおみ、簗田弘大、新保有生、都築かとれ

### ●雑誌「地域創造」第44号を発行しました



公立文化施設等の職員を対象とした芸術環境づくりのための雑誌『地域創造』第44号を、12月20日に発行しました。今回の特集は「新・公民連携」です。公立文化施設や行政がさまざまな形態の民間と連携することで、常識にとられない柔軟かつ

新しい発想で新たな公共サービスが提供されている4つの現場をレポートします。また、地域アーツカウンシルの今を取り上げた座談会に加え、近年増え続ける訪日観光客に対し、公立文化施設の受入れ対応や運営がどうあるべきかをまとめた特別付録「訪日観光客ハンドブック」では、訪日観光客をめぐる政策動向とアプローチの仕方をご紹介します。

#### ◎特集

「つながりをデザインする～新・公民連携」

- 鳥海山 木のおもちゃ美術館(秋田県由利本荘市)
- 大和市文化創造拠点シリウス(神奈川県大和市)
- 八戸市まちづくり文化推進室ほか(青森県八戸市)
- 信毎メディアガーデン(長野県松本市)

#### ◎空間のエスプリ

— 国際的事例のビジュアルレポート

- 新たな文化ネットワークづくりを進めるパリの大文化公園「ラ・ヴィレット」(フランス)

#### ◎体験レッスン

— 公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授

- 地域とのつながりを育むレジデント・アーティスト事業をサントミュージゼに学ぶ(長野県上田市)

#### ◎座談会

- 地域アーツカウンシル

#### ◎SCOPE

— 地域の注目事業レポート

- なら国際映画祭(奈良県奈良市)
- とよた市民アートプロジェクト「ハイブリッドブンカサイ」(愛知県豊田市)
- すみだトリフォニーホール×新日本フィルハーモニー交響楽団(東京都墨田区)
- アルカスSASEBO「九十九島音楽祭」(長崎県佐世保市)

#### ◎海外STUDY

— 海外の文化政策・制度紹介

- 舞台芸術のための公的助成制度の新しい潮流(カナダ・ベルギー)

#### ◎イラストSCOPE

— 邦楽・伝統芸能・古典芸能・祭りの伝承の取り組み

- 現代に生きる芸能「エイサー」

#### ◎特別付録

- 訪日観光客対応ハンドブック

#### ◎BOOK

加藤種男著『芸術文化の投資効果 メセナと創造経済』

●「邦楽地域活性化事業」に関する問い合わせ

芸術環境部 仕田  
Tel. 03-5573-4078

●雑誌「地域創造」に関する問い合わせ

芸術環境部 勝田・三田  
Tel. 03-5573-4068

## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

## 地域通信

### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 三田・高澤

### ●2019年3月号情報締切 2月1日(金)

### ●2019年3月号掲載対象情報 2019年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

### 地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- ◎公共ホール等の求人情報
- ◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

### 北海道・東北

#### ●北海道函館市

函館市芸術ホール  
〒040-0001 函館市五稜郭町37-8  
Tel. 0138-55-3521 中村慎吾  
<http://www.zaidan-hakodate.com/gjh/geijyutu/>

#### HAKODATE WINTER JAZZ FESTIVAL～スウィングしなけりゃ意味がない!～

冬の函館市を舞台に毎年開催しているジャズフェスティバル。これまでジャズとクラシックの融合や、ジャズと和楽器とのコラボなどを実施。今年は“スウィング”をテーマに掲げ、函館や北海道内で活躍する大小の編成による3組のグループが出演するほか、日本全国で活躍するキューバ出身のトランペッター、ルイス・バジエをスペシャルゲストに招く。

[日程] 1月27日  
[会場] 函館市芸術ホール

#### ●北海道北見市

北見芸術文化ホール  
〒090-0811 北見市泉町1-3-22  
Tel. 0157-31-0909 中野雅代  
<http://kitami-hall.sakura.ne.jp/>

#### オホーツクの風土が生んだアーティストシリーズ21 小野木遼 チェロ・リサイタル～チェロの音色で誘う世界の旅～

オホーツク地方にゆかりのあるアーティストを紹介するシリーズ。21回目の今回は、北見市出身で札幌交響楽団でも活躍するチェリストの小野木遼を招く。故郷の人たちに楽しいひと時を提供したいとの小野木の思いから、“チェロの音色で誘う世界の旅”と題し、フランスやロシア、ドイツ、日本などさまざまな国の名曲を小野木自らがセレクトし披露する。

[日程] 1月19日  
[会場] 北見芸術文化ホール

#### ●岩手県北上市

北上市文化創造  
〒024-0084 北上市さくら通り2-1-1  
Tel. 0197-61-3300 千葉真弓  
<http://www.sakurahall.jp>

#### きたかみサロン音楽会2018-2019 vol.3

小ホールで上質なクラシック音楽を味わうシリーズ。国内外の実力派アーティストが、初心者も愛好家も楽しめる「お話しコンサート」をオリジナルプログラムとしてお届けする。今年度3回目の今回は、菅家奈津子(メゾソプラノ)と中鉢聡(テノール)が出演。

[日程] 1月19日  
[会場] 北上市文化交流センター さくらホール

#### ●福島県三春町

三春交流館「まほら」  
〒963-7759 田村郡三春町字大町191  
Tel. 0247-62-3837 佐藤・野村  
<http://www.town.miharu.fukushima.jp/site/mahora/>

#### まほらフェスティバルオーケストラ ニューイヤーコンサート2019

開館15周年を記念して、こけら落としコンサートに出演したヴァイオリニストの三浦章宏を中心に、在京アーティスト45名が集結。この日限りの「まほらフェスティバルオーケストラ」を編成する。ウィーンニューイヤーコンサートの雰囲気是三春町でも味わえるよう、プログラムにはシュトラウスをはじめ7名の作曲家の名曲を揃え、華やかに新年を祝う。

[日程] 1月14日  
[会場] 三春交流館「まほら」

### 関東

#### ●栃木県足利市

足利市みどり文化・スポーツ財団

〒326-0801 足利市有楽町837  
Tel. 0284-41-2121 田部井敦史  
<http://shimin-kaikan.ashikaga-mbs.or.jp/>  
足利ユースオーケストラ発足10周年記念事業《ユース×バレエ》～夢いっぱい「くるみ割り人形」全二幕～

足利市民会館の附属芸術団体であるユースオーケストラの設立10周年を記念し、東京シティ・バレエ団と足利市内のバレエ教室生徒が出演し『くるみ割り人形』を上演。足利ユースオーケストラは、現代版の「足利学校」創造プロジェクトとして、新たな地域コミュニティや子どもたちの芸術環境づくりを目的に2009年に設立。10年を経て音大に進むOB・OGも出始めている。

[日程] 1月20日  
[会場] 足利市民会館



『くるみ割り人形』プレ演奏会(2018年3月)

#### ●埼玉県草加市

草加市文化会館  
〒340-0013 草加市松江1-1-5  
Tel. 048-931-9325 手塚雪香  
<https://soka-bunka.jp/>

#### オリジナル市民音楽劇 歌とダンスのファンタジーX 『メルヘン号出航!～物語の不思議を解き明かせ～』

個人や団体の垣根を越えて市民の力を結集し、“音楽のまち”草加の新たな文化の担い手を育てることを目的に2009年にスタートした市民参加公演。10回目の今回は、おとぎ話や童話、神話などのメルヘン世界の謎を解き明かす物語で、約180人もの市民が演じる。歌やダンス、朗読などが融合した音楽劇とすることで、

参加者がさまざまな芸術にふれる機会を提供している。

[日程] 1月27日

[会場] 草加市文化会館



前回の公演『Xmasに想像したこと～遠い遠いいつかの私～』(2017年12月)

#### ●東京都羽村市

羽村市生涯学習センターゆとろぎ  
〒205-0003 羽村市緑ヶ丘1-11-5

Tel. 042-570-0707 島田福美

<http://www.city.hamura.tokyo.jp/000002093.html>

#### 伝統文化交流事業inゆとろぎ 御嶽神楽公演

全国各地に伝承されている良質な伝統芸能に接する機会を市民に提供し、日本文化への理解を深めるとともに地域の文化振興を図る。今回は国の重要無形民俗文化財に指定されている「御嶽神楽」を大分県より招聘する。その歴史的な価値と古式ゆかしい勇壮・活発な舞は多くの神楽ファンを魅了し、熱意ある若者たちによって受け継がれている。

[日程] 1月12日

[会場] 羽村市生涯学習センターゆとろぎ

#### ●横浜市

横浜赤レンガ倉庫

〒231-0001 横浜市中区新港1-1

Tel. 045-211-1515 小原光洋

<http://akarenga-artrink.yafjp.org/>

#### アートリンクin横浜赤レンガ倉庫

コンテンポラリーアートをより身近に感じ、体験できるよう、スケートリンク全体を毎回異なるアーティストが演出する横浜冬の風物詩。14回目を迎える今シーズ

ンは、画家・絵本作家のミロコマチコを迎え、絵本『けものにおいがしてきたぞ』の世界をつくり出す。スケート教室やワークショップなどの関連イベントも開催される。

[日程] 12月1日～2019年2月17日

[会場] 横浜赤レンガ倉庫

#### 北陸・中部

#### ●石川県金沢市

石川県立美術館

〒920-0963 金沢市出羽町2-1

Tel. 076-231-7580 奈良竜一

<http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

#### 石川県立美術館開館35周年 石川近代美術の100年

現在の石川県立美術館(新館)を開館して以来、35年をかけて収集してきた明治以降現代までの石川県ゆかりの作家による絵画・彫刻作品を中心に約90点を展覧する。「I 明治期～模索の時代」「II 大正から昭和戦前戦中まで～展開期」「III 昭和戦後から平成～多様化へ」の3部構成で石川近代美術の歩みをたどる。

[日程] 1月4日～2月4日

[会場] 石川県立美術館

#### ●岐阜県大垣市

大垣市サイトピアセンター

〒503-0911 大垣市室本町5-51

Tel. 0584-82-2310 早崎由起

<http://www.og-bunka.or.jp/>

#### クワクポリョウタ展 みえるものすべて—all that you see—

ホール、科学館、ギャラリーなどが一体となった複合施設であることを活かし、科学×アートをテーマとした展覧会を開催。市内にある芸術大学[IAMAS]で教鞭を執るメディアアーティスト・クワクポリョウタの光と影を素材とした作品を展示。代表作「LOST」シリーズを含む3作品ほか「光と影で風景を作ろう」をテーマにワークショップで参

加者と共に制作した作品も展示する。

[日程] 12月15日～2019年1月20日

[会場] 大垣市サイトピアセンター

#### 近畿

#### ●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

〒520-0806 大津市打出浜15-1

Tel. 077-523-7136 館脇昭

<https://www.biwako-hall.or.jp/>

#### オペラ『森は生きている』

ロシアの児童文学作家マルシャークの名作に林光が作曲した、日本語による子どもから大人まで楽しめるオペラ。びわ湖ホールでは平成12年に上演して以来再演を重ねている人気作品で、平成28年度から30年度にかけて滋賀県内全域を巡演し、今回はその集大成となる。珠玉のメロディーと同ホール声楽アンサンブルの歌声でオペラ初心者にもお薦めの公演。

[日程] 1月19日、20日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール



『森は生きている』2012年公演  
提供:びわ湖ホール

#### ●滋賀県栗東市

栗東芸術文化会館さくら

〒520-3031 栗東市縹2-1-28

Tel. 077-551-1455 原寛紀

<https://www.sakira-ritto.net/>

#### プロダクションさくらvol.3 成果発表公演『時空の難破船—ロストシップ—』

子どもたちが公演の制作を体験することで、会館に興味・関心をもってもらうことを目的に2016年度にスタートしたプロデューサー体験講座。小学生～大学生

の受講生が全10回の連続講座で、企画会議や出演者との打ち合わせ、レセプションスタッフ、広報計画などさまざまな仕事を体験。成果発表公演は、世界のさまざまな音楽が登場する“アドベンチャー風コンサート”で、骨格となる企画立案やタイトル付けなどを受講生が担当した。

[日程] 1月26日

[会場] 栗東芸術文化会館さくら

#### ●大阪市

大阪市立東洋陶磁美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26

Tel. 06-6223-0055 宮川智美

<http://www.moco.or.jp/>

#### 企画展「オブジェクト・ポートレート Object Portraits by Eric Zetterquist」

古陶磁の細部を高度に抽象化したエリック・ゼッタクイストの写真作品シリーズ「オブジェクト・ポートレート」を紹介。本展では、2016年にこのシリーズの被写体となった所蔵品34点と一緒に展示。彼の作品を日本で紹介するのは初めてとなる。ゼッタクイストの眼を通して、陶磁器の新たな表情を見つめ直す。

[日程] 12月8日～2019年2月11日

[会場] 大阪市立東洋陶磁美術館

#### ●大阪府八尾市

八尾市文化振興事業団

〒581-0803 八尾市光町2-40

Tel. 072-924-5111 井上恵理子

<https://prismhall.jp/>

#### リズム@プリズム「ヤオトマイ～八尾の音と舞をつむぐ～」

赤ちゃんから人生の大先輩まで、身体や言葉が不自由であってもリズムやダンスを通して表現する楽しさ・豊かさを知ってもらおうと企画している事業。3回目の今回は、8月から八尾・高安山の木を用いた楽器づくりと演奏・ダンスのワークショップを開

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

催し、4～93歳までの市民参加者約40人と作品を創作。北村成美(ダンサー・振付家)、大森ヒデノリ(フィドル奏者)らと共に、完成した楽器の演奏とダンスを掛け合わせた“八尾のシンフォニー”を披露する。

[日程] 1月27日

[会場] 八尾市文化会館プリズムホール

### ●大阪府吹田市

吹田市文化振興事業団  
〒564-0041 吹田市泉町2-29-1  
Tel. 06-6386-6333 宮本理絵  
<http://www.maytheater.jp>

#### メシアタープロデュース公演 SHOW劇場vol.12「少年王國記」

関西の劇団や作家、演出家の活性化を図ることを目的とし、2005年より毎年作品を創作・上演してきた事業。12作品目となる今回は、無人島に漂着した少年たちの8日間の物語を、「空間」「身体」「音」にこだわった独特の演出で評価の高い笠井友仁(エイチエムピー・シアターカンパニー)が関西で活躍する俳優たちとつくり上げる。

[日程] 1月17日～20日

[会場] 吹田市文化会館メシアター

### ●兵庫県篠山市

兵庫陶芸美術館  
〒669-2135 篠山市今田町上立杭4  
Tel. 079-597-3961 仁尾一人  
<http://www.mcart.jp/>

#### やきものを分析する—装飾編—

やきものを分析する「釉薬編」に続く第2弾。やきものに描かれた多様な文様や、さまざまな道具を駆使して表現された立体的な装飾に焦点を当てる。新たに収蔵された約30点の作品も含む所蔵品より、古陶磁から現代陶芸までを紹介。陶芸指導員が染付や色絵などの手法も再現し、そ

の歴史や特徴、技法などもわかりやすく見ることができる。

[日程] 12月22日～2019年2月24日

[会場] 兵庫陶芸美術館

### 九州・沖縄

#### ●福岡市

ぼんプラザホール  
〒810-0038 福岡市博多区祇園町8-3  
Tel. 092-262-5027 仁田野麻美  
<https://kibirufes-fuk.localinfo.jp>

#### きびるフェス2019 ～福岡きびる舞台芸術祭～

各地の舞台芸術団体、観客、舞台芸術活動の場を「きびる(=福岡の方言で「結ぶ」の意)」ことをテーマにした舞台芸術祭。東京(劇団チョコレートケーキ)や大阪(コトリ会議)から招聘した5団体のほか、九州から劇団こぶく劇場、劇団きらら、ヒカリノオトの3団体が上演予定。観客が作品について意見交換できるトークの場や参加団体によるリレートークも実施される。

[日程] 1月12日～2月17日

[会場] パピオビールーム、ぼんプラザホール、ゆめアール大橋ほか

#### ●長崎県長崎市

長崎県美術館  
〒850-0862 長崎市出島町2-1  
Tel. 095-833-2110 福満葉子  
<http://www.nagasaki-museum.jp/>

#### クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢とまぼろし —杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界文化遺産登録記念事業。国際的に活躍する現代美術家の杉本博司が、天正少年使節の足跡をたどり撮影した近作を中心とする28点と、ローマのジェズ教会保管の日本殉教図3点ほか貴重なキリシタン関係資料や同時代の南蛮美術

など58点を併せて展示。銀塩写真による撮影と現像体験ワークショップなども実施。

[日程] 11月23日～2019年1月27日

[会場] 長崎県美術館

#### ●熊本県宇城市

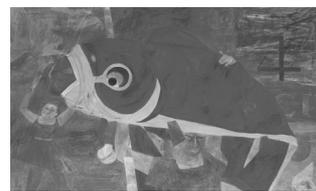
宇城市不知火美術館  
〒869-0552 宇城市不知火町高良2352  
Tel. 0964-32-6222 浦田恭代  
<http://kumamoto-museum.net/shiranuhi/>

#### Exile Dream of Hope 国吉康雄と野田英夫

2019年に生誕130年を迎える国吉康雄(1889～1953)と、カリフォルニアで生まれ少年時代を熊本で過ごしたのち、アメリカに戻り国吉の支援を受けて画才を磨いた野田英夫(1908～39)。共に20世紀初頭のアメリカ画壇で活躍した2人の画家の特別展。熊本県立美術館および福武コレクションとのコラボレーションにより、九州初の大規模な国吉作品の展示となる。

[日程] 1月5日～2月3日

[会場] 宇城市不知火美術館



国吉康雄《鯉のぼり》(1950年/福武コレクション蔵)

#### ●大分県大分市

日本劇作家大会2019大分大会実行委員会  
〒870-0839 大分市金池南1-5-1 (J:COMホルトホール大分内)  
Tel. 097-576-8877 中尾俊一郎  
<https://jpac2019-oita.org/>

#### 日本劇作家大会2019大分大会

日本劇作家協会が主催する、演劇関係者だけでなく、誰でも参加できる市民参加型の舞台芸

術文化の祭典。2014年の豊岡市大会から約5年ぶりに開催される今回は、西洋演劇発祥の地である大分市で開催。「創造型公立劇場の未来」や「2.5次元ミュージカルの時代」など演劇を“知る”“考える”ための多彩なテーマのシンポジウムや、小中学生が楽しめるワークショップ、リーディングなど64の企画が実施される。

[日程] 1月24日～27日

[会場] J:COMホルトホール大分、コンパルホール、平和市民公園能楽堂ほか



渡辺えり・日本劇作家協会会長や大会実行委員長を務める佐藤樹一郎大分市長らが出席した大分大会記者会見

### 講座・シンポジウム等

#### ミエ・アート・ラボ

さまざまな立場の人が“アート教育”というテーマについて共に学びあい、繋がりあうことを目的とした研修会。今年は「視点を変える」をテーマに、「教育」「福祉」「地域活性化」といった分野に対して、演劇や美術など、アートの特性を活かしたユニークな取り組みを行っている講師を招き、「アートの持つ力」について考える。

[日程] 1月20日

[会場] 三重県総合文化センター [講師] 綿井朋子(奈良県立ろう学校)、菅原直樹(OiBokkeShi主宰/俳優・介護福祉士)、森敏子(子ども絵画教室アトリエ エビ代表、亀山トリエンナーレ事務局)ほか

[問い合わせ] 三重県生涯学習センター Tel. 059-233-1151

<https://www.center-mie.or.jp/manabi/>

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 愛知県碧南市

碧南市藤井達吉現代美術館  
「愉しきかな! 人生—  
老当益壮(老いてます  
ます盛ん)の画人たち」



上: 展示の様子/下: 「アトリップ対話型アート鑑賞プログラム」ワークショップの様子  
写真提供: 碧南市藤井達吉現代美術館

● 碧南市制70周年記念事業 開館10周年記念 愉しきかな! 人生—老当益壮(老いてますます盛ん)の画人たち  
【会期】2018年10月30日～12月16日  
【主催】碧南市藤井達吉現代美術館、碧南市、碧南市教育委員会  
【出展作家】富岡鉄斎、熊谷守一、奥村土牛、中川一政、猪熊弦一郎、杉本健吉、片岡球子、秋野不矩、笈忠治、郷倉和子、岩崎巴人、大森運夫、堀文子、野見山暁治  
【関連企画】記念対談「近況を語る」(11月18日)、美術館講談「ほっとけ心のアップレ介護」(11月10日)、アトリップ対話型アート鑑賞プログラム(11月21日)

● 碧南市藤井達吉現代美術館  
商工会議所だった建物をコンバージョンした教育委員会所管の直営美術館。藤井達吉の作品をはじめとする1,600点を所蔵。全国でも数少ないコンサベーション(保存修復専門家)1名を含む7名の学芸部門担当と6名の事務職員、および監視スタッフの合計26名で運営。

● 一般社団法人アーツアライブ  
東京を拠点とする認知症の方を対象にした鑑賞プログラムを実践している団体。国立西洋美術館などで実施。

名古屋駅から電車で1時間ほど。三河湾に面した愛知県碧南市に碧南市藤井達吉現代美術館がある。地元出身で明治から大正、昭和にかけて工芸を芸術の領域まで高め、改革をした藤井達吉のコレクション展示と、年間5本ほどの企画展を開催し、小さいながらも良質な企画で美術界に存在感を放っている。最近では、市外からの来場者も増え、周囲に洒落たレストランができるなどの波及効果も生まれている。開館10年目を迎えた同館取材した。

工業地帯と広い農作地をもつ碧南市は財政的にも恵まれている。1999年から「歩いて暮らせる街づくり」を掲げ、美術館建設もその拠点となるよう計画された。だが、市民への説明不足から反対運動が起こるなど波乱の幕開けだった。藤井達吉の研究者であり、愛知県美術館副館長だった木本文平さんは、館長に就任すると、市民と向き合うとともに、専門家としての知見と人脈を活かし、達吉の作品と思想を基軸にした展覧会を実現していった。

「美術館は存在自体が社会貢献だと思っています。独りよがりの企画ではなく、やはり市民から支持される内容でなければいけない。でも、人集めのイベントになってしまったら美術館である意味がない。そのバランスを取っていくのが私たちの仕事なのです」と木本館長。

そのバランス感覚は、取材時に開催されていた「愉しきかな! 人生」にも発揮されていた。この展覧会は、富山県水墨美術館との共同企画で、明治以降に活躍した日本画家、洋画家のうち90歳を過ぎても旺盛な制作活動を行っていた“ご長寿”作家14名を紹介するものだ。

「高齢化社会の現在、美術館は当然この層へのアプローチをしていくべき。彼らと同時代の作品を紹介する回想法のような企画もありますが、これだと他の世代の共感を得にくい。それで、高齢になっても旺盛な制作意欲を発揮されている作家の作品から、生きるエネルギーを得ていただければと考えました」(木本)

会場には、片岡球子や熊谷守一、猪熊弦一郎など明治以降の巨匠たちの80代、90代の

作品を中心に、壮年期の作品も併せて展示。また、入り口を水墨美術館コレクションの富岡鉄斎80代の生命力溢れる水墨画が飾るなど、小規模ながら見応えのある内容になっていた。キャプションには制作時の年齢に併せて、晩年の作家の心情のわかるコメントを掲載。作品とともに“人生”を感じる展覧会になっていた。

「作品だけで“見ればわかる”という展示は傲慢な姿勢だと思うのです。美術館はあらゆる人に理解していただき、支援していただくのが重要。だから言葉で伝えることも大切にしています。鑑賞者あつての美術館ですから」(木本)

会期中には、認知症の高齢者とその介護者を対象に対話型鑑賞と作品づくりワークショップを併せた「アトリップ対話型アート鑑賞プログラム」も開催されていた。一般社団法人アーツアライブで学んだ愛知県在住の時高直子さんがアーツコンダクター(進行役)となり、展示2作品をお喋りしながら見た後、創作室で片岡球子86歳の作品《めでたき富士(御殿場にて)》を参考にそれぞれが自分なりの富士山を描く。自信なきがけだった参加者も個性的な作品が完成すると、富士山に登った記憶を話し始めるなど大いに刺激されていた。教育普及担当の大長悠子さんは、「対象が通常のワークショップとは異なる層だったので、市の高齢介護課にも協力していただきました。当館では初の試みでしたが、皆さん本当にいい笑顔で帰られて。美術館にも親しみを持っていただいたと思います」と言う。

「地方都市の小さな美術館ですが、その分美術館者の顔が見え、手応えを感じることができる。県立美術館がラグジュアリーカードだとすると、バイクに乗っている気分です(笑)。開館当初から徐々にスタッフを揃え、美術館の基本であるコレクションのために収蔵庫と修復室を増築します。駅前の再整備も計画されており、開館10年で美術館のあるまちとしての姿がようやく見えてきました」と木本館長は感慨深げに語る。

地元作家の充実したコレクションと思想を基盤に、今生きる人々と繋がり、未来へと継承していく——本来あるべき美術館の姿を見たように思った。(アートジャーナリスト・山下里加)